

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら課題を発見し、探究する意欲を高めることのできる教育課程の編成や特別活動の精選・充実に取り組む。学校行事や生徒会活動等の精選と充実を図り、生徒の主体的な活動を支援するとともにユニバーサルデザイン化をはかる。</p> <p>②生徒の主体的な学びを引き出し、個々の生徒に応じた教科指導体制の構築と評価法の研究を行い、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①新教育課程の実施により、表出する成果や課題を全職員で共有し、必要に応じて修正を加える。 また、新型コロナウイルス感染症防止に配慮しながら、生徒会行事を可能な限り実施させる。</p> <p>②ICTを活用した授業展開を研究し、生徒の主体的な学びを引き出し、生徒が「授業における充実感」を感じられるよう授業改善に取り組む。</p>	<p>①学年進行する新教育課程の完成に向け、特に次年度の2・3学年の学習活動に支障がないか検証する。 昨年実施されなかった生徒会行事についてはまずは実現を目標とし、経験不足の生徒を教員がバックアップしながら全員参加の持続可能な行事として実施させる。</p> <p>②ICT機器の活用、ペアワーク、グループワーク、発表等の活動と職員研修を通して、生徒同士が刺激しあえる場面を多く持つ授業づくりを行う。</p>	<p>①職員の意見等を通して、職員個々が適切に新教育課程を実施し、課題を整理できたか。教員相互の情報共有や研修会を適切に計画できたか。 文化祭や球技大会などの生徒会行事を、コロナ禍での最善の対策を講じ、実施することができたか。</p> <p>②授業改善を通じて「生徒による授業評価」において生徒の充実感や主体的な学びの高評価を引き出すとともに、より公正な評価を行うことができたか。</p>	<p>①1・2年生の「総合的な探究の時間」ではスタディサプリを利用し、生徒の「好き」から始まる、視点を変えた疑問をもとにした探究活動を行っている。新教育課程については教育課程検討会を中心に、2・3学年の学習活動、進路実現に支障のないよう再検討を行っている。また教員相互の情報共有については、現在年次研修等を中心に研究授業を実施し、他教科も含めた多くの教員が授業を参観し、情報共有を行っている。</p> <p>②第1回の「生徒による授業評価」の結果を踏まえ、各教科科目に改善策を検討し取り組んでいるところである。ICT機器の活用に関しては校内のWi-Fi環境が整備されプロジェクターも常備されていて多くの職員がICT機器を利用して授業を行っている。感染に注意しながらペアワークやグループ活動によって、生徒同士で刺激しあえる環境がある。またスタディサプリの到達度テストや課題配信を通して、自分の苦手を克服する自主的な学びを促進している。</p>	<p>①新教育課程の1年生は2単位科目が多く定期テスト(中間)を実施しにくいことがあり検討していきたい。新教育課程(2・3年生)の完成に向けては、大学入試受験科目の発表が遅れており、その発表を確認し最終的な調整に入りたいと考えている。研究授業後に行われる教科会議が、定例の会議や面接練習等の進路指導のため、なかなか開催できない状況であり、グループとして日程調整等を心掛けたい。</p> <p>②教員間においてICT機器の活用方法に差があり、情報共有を図りたい。また教員の負担軽減の意味でも、ICT機器を利用することで得られる利点と欠点を各教科で整理していきたい。</p>	<p>①中間試験の課題認識は理解できるが、定期的な試験だけにとらわれない多面からの学習評価と更なる授業改善をお願いしたい。</p> <p>②ICT機器環境が整い、モニターやプロジェクター等を利用し、映像資料と授業プリントを多角的に活用する教員が増えたことは評価できる。 一人1台端末が1年生から導入されているが、教科「情報」や「総合的な探究の学習」以外は頻繁に活用するまでに至らず各教科で活用に苦慮している状況と推察する。家庭学習の補強ツールとしてのスタディサプリの活用促進を目指し、タブレットの活用促進のための工夫を期待する。ICT活用を促進するため、職員間による適切な研修機会が設定されることをお願いする。特別募集生徒に対しては、個別指導計画に基づいたきめ細かい指導をお願いする。</p>	<p>①新カリでの課題は、1年の2単位科目が増えたことで、中間試験の実施が難しい現状となった。また授業改善については、教員がグループ・ペアワーク等を行った。</p> <p>②ICT機器の活用についても環境が整ったこともあり、モニターやプロジェクター等を利用し資料、映像、授業プリントを見せる教員が増えた。またインクルーシブ教育の観点から、その日の授業スケジュールの提示やフロントゼロを意識した教員も多くなった。</p>	<p>①1年次科目の中間試験については、小テストや発表に加えて、試験時間の変更を検討し、実施する方向で検討したい。</p> <p>②教科間、教員間においてICTの活用については差があるので、情報Gの協力を得ながら研修会の検討を行っていききたい。また研究授業後の会議設定が難しい場合は、情報共有の意味でジャムボード等を活用するように検討したい。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を推進し、協調性と責任感の涵養を図る。</p> <p>②生徒指導と生徒支援の一体化を推進し、教育相談体制の充実と外部連携を進めるとともにユニバーサルデザイン化を図る。</p>	<p>①部活動の活性化のため加入率の向上と充実感の育成につながる継続的な支援体制整備に努めるとともに、学業との両立を推し進める。</p> <p>②各学年が生徒の課題を的確に把握し、個に応じた指導と支援が一体化した、きめ細やかな生徒支援を進める。</p>	<p>①部活動加入率及び定着率にも注視し、説明会等において入学前の中学生へ周知する。また、感染予防に努めコロナ禍においても継続的な活動を目指す。</p> <p>②学年会議やケース会議、支援会議等で、生徒個々の状況や課題、ニーズなどの情報を共有し、迅速かつ適切な支援を多角的に行う。</p>	<p>①部活動加入、定着の状況を把握し部活動の活性化につながったか。中学生への発信について、担当Gとの連携ができたか。</p> <p>②学年会議やケース会議、支援会議での情報共有や学習環境の整備を通じて、個々の生徒に応じた支援につながっているか。</p>	<p>①部活動加入率は64.5%。コロナ禍の影響もあった中で、一時期に比べて回復傾向にある。定着の状況については、今後行う予定の調査による。また、中学生に対しては、情報管理G主導で行われるオープンスクール、学校説明会を通して、部活動や学校行事等の様子を発信することができた。</p> <p>②各学年において課題を抱えた生徒の情報共有を図り、その事情に応じてケース会議、支援会議を行い、個々の生徒に対応してきた。教育相談コーディネーターの対応、スクールカウンセラーの教育相談が適切に行われている。</p>	<p>①部活動の定着状況についての調査を行い、その分析を行うとともに、各教科ごと活性化に向けた取り組みを支援していく。中学生への発信が結果につながるように、参加者アンケートをもとに模索していく。</p> <p>②生徒が抱える課題が多様化している。今後も教員間の情報共有を密にし、個々の生徒に適切な対応をしていく。</p>	<p>①部活動運営では、一つの競技でも能力別に活動を分けたりや生涯スポーツの視点から楽しむことを最大目標とする等、柔軟な指導のあり方も考えられる。 また、学校行事で生徒は成長すると感じるので、コロナ禍でも工夫をして出来るような雰囲気作りをお願いしたい。 少人数、TT等には手厚い体制があると思われるので、足柄高校のアピールポイントとしてほしい。</p>	<p>①2月現在、1年生は84%、2年生は92%が部活動を継続している。退部理由に学習との両立、経済的理由、意欲喪失などである。その後の動向はアルバイト等様々である。中学部活動の地域移行が進む現在、高校もあり方が問われる。 ②ケース会議や支援会議が、生徒情報の教員間共有につながっている。生活指導では、生徒の基本的な生活習慣や校外での行動面での指導課題も見られた。</p>	<p>①学校説明会や部活動体験・見学会などを通して中学生への啓蒙を今後も続けていく。</p> <p>②一人でも多くの生徒情報や課題の把握、共有に努め、適切な対応・支援を続けていきたい。安心して安全な学校生活に向けた指導・支援を実践していく。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月28日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①生徒自身が考え、体験をするなど、主体的に取り組むキャリア教育を計画的・段階的に実践する。 ②「実践推進校」として、生徒一人ひとりの社会接続を実現するために、ていねいな進路支援を行う。	①生徒一人ひとりの希望進路の実現に向け、保護者及び生徒との綿密な情報共有を図る。説明会や進路情報の発信を細やかにを行い、生徒の主体的な進路実現の動きを促す。 ②特別募集で入学した生徒の社会接続に組織的に取り組む。	①生徒が自らの進路開拓に挑戦する姿勢を支援し、生徒・保護者との情報共有や進路データの有効活用、多様な入試制度に係る的確な情報提供を図る。 ②3年間の「進路実践」を系統立てて生徒の現在の位置を自覚させ、生徒個々の希望に応じて幅広い実習・体験先の開拓を行う。	①各生徒の進路目標が明確になり、安易な進路選択とならない意識付け(1・2年)や、第一志望の実現(3年)ができたか。 ②系統的な授業展開や保護者への説明会等を通じ、特別募集生徒の個々の希望を踏まえた社会接続が実現できたか。	①3年生は進路ガイダンスと進路面談を連動させ、最新の情報をもとに生徒が進路希望を明確化・具体化できるように支援した。外部の模擬試験実施時や出願指導の際に定期的に面談指導を行い、学習意欲を高める指導を行った。1・2年生については、実力模擬試験や外部講師による対面でのガイダンスがよい刺激となり、将来を見据えた動機づけとなった。 ②進路G及び教科担当者並びに実習担当者、担任が連携し、生徒個々の進路希望に適した指導を組織的に行っている。	①感染症対策のため、医療系・幼児教育系の体験学習が今後も実施が難しい状況が続くと考えられる。本校だけでは対策が難しいため、地区の高等学校全体で協力して対応していく必要がある。生徒の職業理解を深めるための対策が課題である。 ②これまで蓄積してきた「進路実践」の取り組みを継承し、ていねいな進路支援を行うため、一層盤石な組織づくりを目指していく。	①1・2年生から『外部講師がよい刺激になった。』という達成状況について、学期末に学習支援業者や専門学校などからの講師による講話を活用しているとの報告で、目指すべき進路選択や、そのためにやるべき事な分かりやすく意識付けを行っている点が評価できる。 ②特別募集生徒の進路指導については大きな成果を上げており評価できる。一方で進路指導担当職員の日常の地道な指導が過度な負担の上に成り立つことの無いように、県教委に対しては、きめ細かい人的な配慮や持続可能な制度設計を求めたい。	①総合型選抜、学校推薦型選抜(とくに公募制推薦)においては、職員一丸となり、小論文対策や面接指導を徹底したが、進学実績としては大学進学率割合については昨年度比で10%程度減少した。 ②特別募集生徒の進路状況では、生徒個々の希望に応じた進路指導を、組織として実践したことで、15名全員が希望する方面の進路が実現した。	①グループ組織を強化し、大学進学率を6割程度まで回復するための具体的な方法をグループで提案する。進路業務を無事故でかつ適切に行う。 ②職業の適性を探究するため、複数の企業への実習を行い、進路選択の幅を更に拡大する。
4	地域等との協働	①地域に情報発信するとともに、生徒の地域理解と地域貢献を通じ、連携と協働を推進する。 ②地域と連携して、地域防災を推進する。	①本校の魅力の発信のためにHPやデジタルコンテンツの充実を図る。様々な外部の意見を聴取し、学校運営に活かす。 ②防災関係のマニュアルの周知を徹底するとともに防災教育を推進し、総合的な防災体制を強化する。	①地域貢献活動の復活を目指し地域交流の場を設定する。HPによる本校の特色や取組みの発信を行う。 ②紙上防災訓練(DIG)に加え、地域にも協力を得た災害に対処する実践的な訓練を計画実施する。	①地域との連携・交流の実績がどれだけあったか。HPによる本校の特色や取組みの発信を昨年度以上に発信できたか。 ②地域と連携した防災体制整備及び訓練が実施できたか。	①地域貢献活動や相模人形芝居鑑賞会・避難所開設訓練など、コロナ禍で実施できなかった地域との関連行事が復活し、HP等で発信した。HP作成ルールを変更し多くの職員が平易にアップできるようにしたこと、従来HP作成にかかわっていない職員が自身の担当分野での発信を試みている。また、公式Twitterが開設され日常の出来事を速報で発信するツールができた。 ②10月に近隣自治会および南足柄市役所の防災担当者を招き避難所開設訓練を3年ぶりに実施した。地域の避難所となる場合の検討すべき点や、生徒が避難所として利用する際の物品確認や設置練習など、今後につながる内容となった。なお、DIGの実施は12月となっている。	①広く行事を一般公開するところまで、コロナの状況は改善していないので、対面しなくともできる地域連携の在り方を検討していく必要がある。部活動の発表活動などが考えられる。個人情報保護に配慮しながら進めていく必要がある。HPとTwitterの使い分けを適切に行い様々な情報を発信していきたい。 ②避難所開設訓練において、学校周辺の危険箇所を南足柄市役所職員に直接見てもらい、改善の要請ができたことは危険箇所の減少につながるはずである。伝達しただけでなく、対応してもらえたかどうかを見守る必要がある。	①ツイッターの活用は、中学生を中心に影響力が大きいツールであり、本校の即時性の高い情報発信に寄与したのではないかと。一方で保護者にはマチコミでのサポートが効果的と思われる。ツールが多いと混乱する面もあるので、使い方(活用方法)のルールを作って活用をお願いしたい。 ②南足柄市との間で、災害備蓄品の保管場所の確保等で連携を続けてきた。利用予定のない物品を処分するなどして、市の防災備蓄品の保管場所の確保等、本校が地域に貢献できる内容を引き続き検討する。	①中学校訪問では足柄高校の魅力や特色を教員や中学生に説明をした。またWebページやTwitterでの発信を行い本校の知名度を上げたことも定員割れの解消に寄与した。 ②マチコミは学校から本校関係者への連絡として重要だが、一般向けには、多様な方法で発信を続けたい。また、サイトの維持管理に気を配り、新しい情報を得られるWebページにするよう努めたい。 ②校内の不要物品を処分作業をすすめる。市の災害備蓄品を保管することができ、避難所開設に貢献する。南棟の災害備蓄品収納スペースの検討を行う。	
5	学校管理 学校運営	①学校全体で教育環境に対する課題を共有し、組織的・計画的に改善していく体制を整える。 ②不祥事防止に努め、実効性のある組織的な取り組みを行う。	①魅力と特色づくりのための会議をさらに発展させ、学校課題を改めて分析するとともに、全職員で学校課題の解決に向け、具体的な改善手法に取り組む。 ②不祥事防止研修を職員が自分事として捉え、事故や不祥事を起こさない。	①魅力と特色会議での建設的な協議を経て、具体的な提言を行い実行に移す。受検者数の増加に直結するよう、本校の魅力を広報活動等で周知する。 ②不祥事防止研修では職員が主体的に研修を捉えられる方法を実践する。	①生徒の学力向上や人格形成につながる具体的な課題解決策を示すことができたか。また本校への志願者数を増やすことができたか。 ②不祥事防止研修で職員が主体的な参画意識をもって、研修に臨むことができたか。	①魅力と特色づくり検討会議の目的を「本校の魅力・特色を再検討し、外部への発信方法を工夫して入学志願者を増やす」とし、10月末までに5回開催した。具体的な内容として、オープンスクールや学校説明会を生徒主体で説明するスタイルの提案、学校公式ツイッターを開設(9月)して、文化祭参加団体の動画紹介や修学旅行の現地レポート等、校内外に生徒の生き生きとした姿を発信した。 ②多くの職員が主体的に行う研修機会は設けることができていない。	①新たにTwitterを開設し、既存のHPとともに広く情報公開を行った。その結果、入学希望者数の増加や在校生・教職員にとっての愛校意識にどのように関連したか、事後調査とさらなる検討が必要と思われる。 ②職員に意見聴取を行って、職員から上がってきた意見を参考にしながら、職員主体の研修形式を今後検討したい。	①北棟3階の廊下にはこりが多く、コロナの感染対策の面でも改善をお願いしたい。 ②職員が自分のこととして主体的に不祥事防止研修に臨むためには、管理職から一方通行ではなく、職員の方皆さんからの自発的な意見の積み上げが大切である。	①耐震補強工事に伴いトイレが改修された。学校行事が例年に近い状況に戻り、来校者が増え、快適な学習環境の整備がさらに求められる。 ②入選不祥事防止研修時に、本校で起こる可能性のある事案について意見共有することで、主体的な研修を行いことができた。 ①安全な学習環境を整備する。また、廊下も含めて清潔な校内環境に向けて、行事等の前に清掃完了の確認を行う。 ②若手職員にひごる感じているヒアリハット事例を挙げ、若手の悩みを全体で共有する研修機会を設定する。	